

しょうがいそうだんしえん 障害相談支援センターとは

川崎市から委託を受けた法人が設置運営する公的な相談機関です。障害がある方やそのご家族、地域にお住まいの方たちの、様々な困りごとや悩みことなどをお受けし、解決方法を一緒に考えたり、探したりするところです。

☆ 私たちはサポートします

○どなたでも

障害のある方やその家族、地域のお住まいの方、関係機関の方など、どなたでもご相談ください。

○身近な地域で

障害者相談支援センターはそれぞれの所在区を担当しています。

お住まいの区の障害者相談支援センター4か所のうち、どちらでもお気軽にご相談ください。

○どんなことも

どんなことでもまずはご相談ください。困っていること、不安なこと、はっきりしていないことでも一緒に考えます。

社会福祉法人セイワ受託相談支援センター



①あさお基幹相談支援センター

麻生区万福寺2-4-7才沢第2ビル102

☎299-8895

②地域相談支援センターゆきやなぎ

高津区二子2-18-10グロービル高津101号室

☎910-5917



○職員(生活支援員・世話人等)大募集○

福祉のお仕事に興味のある方、お気軽に、施設見学、お問い合わせください♪
おまちしております！

お問い合わせ先 044-954-5011

○編集後記○

もうすぐ新年度を迎えます。お別れもあり、出会いの時でもあります。

新型コロナウイルスによりイベント・行事が中止となって気持ちも沈むような状況ですが、皆さん心は明るく、体調を整えてこの困難を乗り越えていきましょう！

本誌も無事に初号を発行することができました。次年度も引き続きよろしくお願いたします。

ぼう えん きょう 望遠鏡

かわさきじゅさんがくえん
～川崎授産学園だより～
そうかんごう
創刊号

令和2年3月発行

社会福祉法人セイワ川崎授産学園
川崎市麻生区細山1209番地
TEL044-954-5011



発刊にあたって 川崎授産学園 学園長 横山 裕一

この度、川崎授産学園の機関紙『望遠鏡—川崎授産学園だより—』を無事発刊できる運びとなりました。川崎授産学園は、国際障害者年の昭和56(1981)年に開園し今年度で38年目となり、これまで受け継がれてきた「人間の尊厳と社会的公正をめざし、ここに、市民世代連帯の共同の事業として、この学園を設ける」という基本理念を軸に、四季折々の良質な自然と広大な敷地面積(22,502.81 m²)に恵まれた環境の中で、障害者のための複合施設として各事業を展開し、最新の社会情勢、法令、地域の要望を踏まえ、川崎市における北部拠点施設として、社会福祉を取り巻く状況の変化に応じた開かれた施設を念頭に、地域の社会福祉基盤の担い手として事業展開の推進を図っています。

実は今をさかのぼること30年前の平成2年1月に、当学園では機関紙『カリヨンの響—川崎授産学園だより—』を創刊、その後平成5年の13号をもって休刊となっていました。創刊当時(開設8年目)は現在と実施事業も若干異なり、つばき寮と市民交流事業(管理部門、障害者のための宿泊施設「つつじ山荘」、心身障害者デイサービス事業「つばき工房」、福祉啓発促進事業)を柱に事業展開しておりました。まだ学園もご利用者も若く現在とは違う活気があったと記憶しています。そのせいかB5判ながら紙面も12ページ前後というボリュームにモノクロで文字がびっしりと大変読み応えのある紙面となっていました。当時の編集者の熱気が感じられ、またその当時から職員、ご利用者のみならず、地域の関係者やボランティア各位からの暖かい支援が伝わるものでした。休刊となってからは各事業で保護者や関係者向けに広報を展開しており、現在はホームページでも学園の近況がわかるようになっています。今回再度紙媒体での機関紙を発刊するにあたり、『カリヨンの響』の復刊も検討しましたが、創刊当時とは時代も変わり、フルカラーでご利用者の表情や我々の活動を紹介できることから、活字よりもビジュアル主体でリニューアルとし、メインタイトルは先人をリスペクトしてあえて使わず発刊することとした次第です。

今後学園は開設40周年を迎えます。また、長年の悲願である全面建替えも川崎市や関係機関と協議しているところです。そのような中ではありますが、コンスタントに川崎授産学園の活動を紹介できればと思います。先ずは13号を目指して。



現在運営している主な事業紹介 Part 1

○障害者支援施設（入所）つばき寮

◇施設入所支援 定員50名（男性・女性 各25名）

◇生活介護 定員50名 ◇短期入所 定員4名

川崎授産学園の設立とともに知的障害者の入所施設として開所しました。平成20年4月に障害者自立支援法に基づく新体系へと移行しています。主に知的障害者の方が共同生活をし、作業や余暇活動などをして過ごされています。

○川崎授産学園グループホーム

◇各ホーム定員4名（4カ所 男性8名・女性8名）

平成9年グループホームぎんがを開所し、その後平成11年グループホームスカイ、平成15年グループホーム第2スカイ、平成16年グループホーム第2ぎんがを開所しました。平成26年4月には障害者総合支援法に基づきケアホームより川崎授産学園グループホームへと移行しました。主に知的障害者の方が川崎授産学園の近くの軒家で地域での生活をしています。各ホーム4人ごとに共同生活をし、日中は通所施設へ通っています。

人と人とのつながり、やさしさが発信される場所へ

つばき寮施設長 中島 達也



「こんにちわー！」「こんにちわー！！」と元気な声が飛び交う川崎授産学園の名物イベントに、毎年5月に行われる「一斉草刈り」があります。利用者さんに職員、保護者のみなさんにボランティアさん、この日は体育館などの貸館を利用されている方々にもボランティアとして加わっていただきます。言い換えると川崎授産学園でつながる人たちみんなで行う「草刈り大会」です。総勢150名を超える人たちが、正門入口エリア、中庭エリア、道路フェンスエリア、駐車場周辺エリア、裏庭Aエリア、裏庭Bエリアなど、15ものエリアをグループで分担し草刈りに挑みます。

利用者みなさんも刈られた草集めに加わり、自然と挨拶を交わし、いろいろなところでお話が始まり、笑顔が生まれ、みんな汗をかきながら…水分補給のお茶で一息、みんな一緒に協力しながらそれぞれができることを一生懸命頑張ります。

この日は豊かな自然が自慢の学園が裏目となり、草刈りの大変さが身に沁みます…が、少人数では到底できない草刈りもみんなの方が集結すると、床屋に行った少年のように学園全体がきれいさっぱりと見違えるほどに気持ちよく生まれ変わります。

私はこの「一斉草刈り」が何となく好きです。利用者も職員も、保護者もボランティアも多くの地域の方々も…みんなが何の隔たりもなく協力し合って行う草刈り、そこにはみんなの笑顔があり障害があってもなくても変わりのない、地域の中に息づく学園を感じることができるからです。それは、これまで育んできた学園の宝物であり、これからは人と人とのつながり、やさしさが発信される学園であり続けたいと思います。さあ、今年も5月が近づいてきました。今年の草刈りも頑張るぞー！！



川崎授産学園つばき寮では、年間を通じて四季折々の行事を利用者の皆さんと共に楽しく過ごしています！！



ボランティアの方々と一緒に皆さんでホテルモリでフルコースを頂きました。



年間を通じて各グループに分かれて、温泉旅行やテニスランド、白樺湖での旅行を行っています。



季節ごとに様々な行事を行い、夏の夕涼みで皆さんと花火を楽しみました。



学園創立38年目のお祭り、今年は夏祭りから秋祭りになりました。

つばき寮は利用者一人ひとりの幸せを利用者の立場に立ち思いを寄せ、個人の尊厳を守り、利用者支援に対してしっかりと説明責任が果たせる適切なサービスの提供に努めます。施設での暮らしも障害があってもなくても変わりのない「当たり前の暮らし」を支援の基本とします。皆さんの意志や希望を大切にしています！！

つばき寮はどんなところ？

障害支援区分が区分4以上である方々に食事や入浴などの日常生活上の支援を行います。日中は、作業活動や機能訓練等を行います。



川崎授産学園つばき寮

- 男性利用者…25名
- 女性利用者…25名
- ショートステイ…男女2名（計4名）

グループホーム

川崎授産学園グループホームでは、利用者の皆さんが楽しめるイベントもたくさん実施しています！！



地域社会の一員として、誰もが生き生きと笑顔で暮らせるように自分らしさを大切にしています！！

グループホームってどんなところ？

障害者福祉法第5条第1項に規定された障害福祉サービスの一つで、身体・知的・精神障害者及び難病障害者等が世話人等の支援を受けながら、地域のアパート・マンション・一戸建て等で共同生活を営む場です。川崎授産学園グループホームでは4つのホーム（男女2棟ずつ定員4名）を運営しています！

川崎授産学園グループホーム

- ① ぎんが (男性ホーム4名)
- ② 第2ぎんが (男性ホーム4名)
- ③ スカイ (女性ホーム4名)
- ④ 第2スカイ (女性ホーム4名)

現在運営している事業紹介 Part 2

○障害者支援施設（通所）つつじ工房

- ◇生活介護 定員50名
- ◇就労継続支援B型 定員10名
- ◇短期入所（単独型） 定員4名

平成15年施行となった支援費制度とともに、心身障害者デイサービス事業から法定施設として認可を受けました。平成20年4月に障害者自立支援法に基づく新体系へと移行しています。主に知的障害者の方が自宅やグループホーム等から通所し、作業や余暇活動などをされています。

○市民交流事業

市民交流事業は、障害者の社会参加への支援と地域福祉の推進を図ることを目的に、開園当初より川崎市から受託した事業です。地域との交流事業としての福祉啓発促進事業(委託)、障害者就労支援事業(補助)を実施しています。

○障害者相談支援センター

平成25年4月から川崎市より委託を受け、障害者相談支援センターとして、麻生区に「あさお基幹相談支援センター」、高津区に「地域相談支援センターゆきやなぎ」の2カ所を運営しています。専門の相談員が障害のある方やその家族の方々の福祉に関する相談を受けています。

自然、地域の温もりの中にみんなの笑顔

つつじ工房施設長 寺下 敏幸



つつじ工房は川崎授産学園の敷地内にある通所型の障害者支援施設です。主に知的に障害をお持ちの方の暮らしの一部を支えています。幅広いニーズにこたえようと、日常生活や創作活動・作業を支援する生活介護事業、自立に向けた準備や家族のレスパイトなどを担う短期入所事業、将来の就労に向けた支援をする就労継続支援事業B型、ご利用者が必要とする福祉サービスが適切に受けられるように支援をする指定特定相談支援事業の4つの事業を展開しています。

活動範囲は施設敷地内に留まらず、近隣に出掛けての落ち葉の清掃・回収、腐葉土の配達、あさおのおみせ（麻生区役所4階）、しんゆりマルシェへの出店、王禅寺ごみ処理センターかわるんパークの点検・清掃作業や川崎市緑ヶ丘霊園の墓地清掃など、地域との繋がりも大切にしています。

つつじ工房を利用されているみなさんの笑顔を大切に、望む生活が送られるよう職員一同、これからも取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。



つっじ 工房



就労継続支援B型

就労継続支援B型事業では、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練等を提供しています。

《作業内容》

- ☆外作業…環境整備、畑、しいたけ栽培
- ☆室内作業…クリーニング屋から納品したハンガーのタグ切り、拭き作業
- ☆製菓作業…シフォンケーキ・クッキーづくり
- ☆喫茶作業…洗い物や注文の受け渡し
- ☆ログ作業…地域の農園で仕入れた野菜の仕分けや販売

ご利用者の希望や能力を知り、様々な作業に取り組んでいく中で能力向上を目指しています。



☆屋外作業・・・環境に恵まれた敷地内の裏山での腐葉土づくり。



近隣に落ち葉の回収に出かけるところから始まり、堆肥・熟成後に使いやすいように丁寧に仕上げをし袋詰めをしてから販売しています。注文を頂き、ご依頼があれば配達まで行っています。



☆室内作業・・・編み物（帽子やマフラー）や布製品



（バッグやエフロン、アクリルたわし）などを中心に作製しています。



生活介護事業

私たち、生活介護事業では、日常生活支援と合わせて作業製品づくりを通じて、創作活動・生産活動の機会を提供しています。



しみんこうりゅうじぎょう 市民交流事業

ふくしけいはつそくしんじぎょう 福祉啓発促進事業

地域交流のためのイベントや講座を通じて、障害理解など福祉啓発を行い、障害の有無にかかわらず、市民同士が自然に寄り添うことが出来る温かな地域づくりを目指しています！



ちいきこうりゅう ～いろいろな地域交流～

しょうがいしゃしゅうろうしえんじぎょう 障害者就労支援事業

ログショップ・喫茶店の営業、菓子・加工食品の製造、菓子・野菜等の販売を通じて、就労に必要な作業内容と知識等の向上訓練を実施し、就労の場を提供しています。



おんがくこうりゅう かなで 音楽交流サロン奏って？

誰でもふらっと立ち寄れるサロンで、プロの演奏を聴きながら喫茶も楽しめます。



シフォンケーキ
コーヒー
各100円

れいわがんねん かつ にち かい むか
令和元年12月12日で150回を迎えました

かくしゅこうざ あんない 《各種講座のご案内》

- ・点字入門講座（6回 1～3月開催）
- ・手話入門講座（7回 10月～11月開催）
- ・コーラス講座（4回 5～6月開催）
- ・ボランティア養成講座

かくしゅ あんない 《各種イベントのご案内》

- ・音楽交流サロン奏
- ・コンサート 奏・天体観望会
- ・福祉講演会



てんたいかんぼうかい 天体観望会

ねん かいがいさい さまざま
年4回開催。様々な
ぼうえんきょう てんたいかんそく
望遠鏡で天体観測を
楽しむことができます★

